



学校だより

令和 3年 1月 8日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.517

「リンゴが教えてくれたこと」

校長 谷田 弘子

あけまして

おめでとうございます

新しい年・令和3年が始まりました。新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、緊急事態宣言が出された中での3学期の始まりです。教育活動がさらに制限されることにはなりますが、元気な児童と教職員が力を合わせて乗り切ろうと思っています。引き続き、ご理解とご支援をお願いいたします。

さて、皆さんはリンゴが好きですか？みずみずしいリンゴ、とてもおいしいですね。私も、リンゴが大好きです。でも、リンゴはとても病気や害虫に弱い果物です。ですから、リンゴを作るには、たくさんの農薬を使って消毒をしなければなりません。30年ほど前、私が長野県を旅行したとき、葉だけでなく幹まで白くなった木が並んでいるのを見たことがあります。地元の人に「あれは何ですか？」と聞くと、「消毒したリンゴの木ですよ。」と教えてくれました。そのときは、「リンゴをつくるのに、あんなに消毒するのだ」と思っただけでした。

でも、そうした農薬をたくさん使うリンゴの栽培方法に疑問を感じた人がいます。それは、青森県でリンゴを栽培している木村秋則さんという人です。木村さんの奥さんは、農作業をすると肌に白いポツポツができたり、皮がむけたり、赤い斑点ができてしまいました。そして、農作業にも出られなくなっていました。これは農薬が原因ではないかと考えた木村さんは、無肥料・無農薬のリンゴ栽培に取り組み始めま

す。木村さんのリンゴ栽培は失敗の連続でした。近所の農家の人からは、「木村さんの畑の害虫が自分の畑に来るので困る。」などどいった悪口を言われました。おまけに、リンゴができないので、全く収入のない状態が何年も続きます。木村さんは死んでお詫びをすることを考え、木の枝にロープをかけます。ところが、その木を見ると、農薬をまいていないのに虫の害もなく、葉をいっぱいにつけているのです。その足許を見ると、葉が茂り、土がふかふかで柔らかく、土の匂いに満ちていたのです。木村さんは「これが答えだ」と直感しました。それから土づくりに取り組みます。リンゴの除草刈りをやめ、自然の循環に任せたのです。木の根元に大豆を植え、土に栄養がたまるようにしました。そして2年後、1本のリンゴの木に7つの白い花が咲き、2つのリンゴが実りました。その翌年、木村さんの畑のリンゴの木は、一斉に満開の白い花を咲かせたのです。木村さんが無肥料・無農薬栽培を始めて、実に11年の年月が経っていました。木村さんは言います。「この栽培をやったことは、私ができることは、リンゴが育ちやすいような環境のお手伝いをするくらいということでした。人間も一生物にすぎません。互いに生き物として共生しているのです。」

さて、リンゴは私たちに何を教えてくれたのでしょうか。さまざまな困難にくじけず自分の信じた道を歩み続けた木村さんの生き方からは、信念を貫くことの大切さを学び、木村さんのリンゴづくりからは、自然と共に生きることの大切さについて考えることができます。

1月生活目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」

「気持ちのよいあいさつをしよう」とは、どのような目標なのでしょう。「おはようございます」を発する人がいて、それを受け取る人がいます。そして、受け取った人がお返しの「おはようございます」を発信し、はじめに発した人が受け取ります。気持ちのよいあいさつをするためには、発する人と受け取る人の両方の気持ちが、明るく健やかであることが必要です。そのためには、心と体の健康にも留意しなければなりません。さらに加えて、あいさつを発する人と受け取る人との両方が、「互いを思いやる気持ちをもつこと」も大切になります。ご家庭でも、このような観点で「あいさつ」を見直してみてください。

